

お米食べる門には福来たる

富の原小学校

五年

入口

惺南

「はい、どうぞ。」

私はお父さんのおにぎりが大好きです。でも、
いつでも食べられるものではありません。食
べられるのはお休みの日だけです。しかも、
お父さんが一番に起きた時にこっそり作って
おどろかせてくれる特別なおにぎりです。お
父さんの大きな手で作るおにぎりは、私のか
た手で持つと重くて分厚くて、きれいな三角

形をしています。私達が食べる時も湯気が出
ているくらいのホカホカおにぎりなので、き
っとお父さんは湯気がモクモク出ている真っ
白なご飯を「熱い、熱い。」と言いながらにぎ
っているのだらうなと想像できます。ついた
だきま^あす^し。お母さん、お姉ちゃん^やとロい^っ
ばいおにぎりをほおばります。「おいしい。」
とみんなで目を合わせて言うとお父さんは
満足そうに「よか^った^し。」と言います。海のに
おいがするのり、ち^よっ^ふぴりの塩味。一番感

じるのは、ご飯のあまみです。お茶わんのご飯もおいしいけれど、おにぎりになると、ご飯のあまみをたくさん感じられるから好きです。お父さんのおにぎりを食べると、幸せな朝がスタートします。

私は、ようち園から三年生まで、背の順が前から二番目でした。お姉ちゃんは、後ろから数えた方が早かったです。どうしたら、そんなに背がのびるのだろう。お姉ちゃんところがう所は、お米を食べる量でした。お姉ちゃん

んは、白いご飯が大好きでたくさん食べていました。私は、少食だったのでおかずが食べたくて、夕食の時はお米を食べていませんでした。お米を食べなくても平気でしょ。と

思っていたからです。お姉ちゃん

のお米を食べようと決めて、毎日少しずつでも食べるようにしました。すると、二年間で身長が十センチメートルものびました。背の順も四年生は前から四番目、五年生の今年は五番目になって、おどろいたし、うれしかっ

たです。お米のエネルギーを感じました。

私が食べているお米は、福重に住んでいる親せきのおじさん、おばさんが作ってくれています。五年生の社会で、米づくりを学習しました。お米という漢字は「八十八」と書き、お米がしうかくされるまでに八十八もの手間がかかることを意味しているそうです。今は機械化が進んで昔より手間はへったけど、それでも農家の方の手間がたくさんかかって作られていることを知りました。福重のお

ばさんも、自然が相手だからお米作りは大変だと教えてくれました。

私にとってお米は、幸せを運んでくれる食べ物です。これからもお米一つぶ、一つぶを大切に味わって、自分のエネルギーにして、心も体も成長していきたいです。そして、たくさんのお米を食べて、たくさんの方の福がやってきますように。